

とく
徳

ほう
朋

むりょうじゅ
無量寿といういのちに生かされる

のぶつか ともみち
延塚 知道



のぶつか ともみち
1948—現在
福岡県出身。元大谷大学教授。
現大谷大学名誉教授。
真宗大谷派昭光寺住職

私たちが「いのち」と言いますと、普通は動物的ないのち、生物としてのいのちを考えますから、私たちの分別で量ることの出来るいのちです。例えば、五十年生きたとか、百年生きたというように、量ることができます。(中略) いつまでも長生きしたい。こういうのは、我々人間の本能だと思います。だから私は、あちらこちらにお話にまいりまして、おばあちゃんたちに「いま一番大事だと思う事は何ですか」とお聞きしますと、ほとんどの人が、「健康と長生き」と言われます。皆さんもそうですか。やはり何歳になっても私たちは、これで死んでもいいとはなかなか思えない。健康で長生きをしたいと思うのが、私たちの本能ですね。

しかし、健康で長生きと言いますけれど、どんな人も必ずいのちは終わっていきます。私たちがどんなに長生きしたいと思っても、健康はそう長く続きません。人間のいのちは誰でもそういう有限な制約の中にありますが、それにも拘わらず本能は無限ないのちを願っています。その誰も持っている人間の祈りは、いったいどこで全うされるのでしょうか。もう少し広く言えば、思い通りにならないのが私たちの人生ですが、その人生がこれで充分だと、どこで言えるのでしょうか。そういう人間の祈りに応えて説かれた経典こそ『大無量寿経』という

教えなのです。『教行信証』に親鸞聖人が念仏に帰依した感動を次のように説いています。

「しかれば名を称するに、能く衆生の一切の無明を破し、能く衆生の一切の志願を満てたまう。」

念仏に帰依すれば、仏さまの智慧に照らされて我々の分別が何の根拠もないことがよく知らされて、宿業の身が持っている一切の願いの全てが無量寿によって満たされていくということです。私たちの分別では量ることが出来ないけれど、大きな仏さまのいのちに帰命して、「帰命無量寿如来」と頭を下げる事が出来れば、一切の事すべてが満たされる。だから自分の人生に手を合わせて、私の人生はこれで充分であった。そしてまた、亡くなっていくときも、自分の人生の全体に手を合わせて感謝することが出来る。というのです。そうなったときにはじめて人間の分別で量る事が出来て死に向かう生物的ないのちではなく、仏さまの大きな無量寿といういのちに生かされる。我々の生物的ないのちの全体を包んで、仏さまの方から与えられている無量寿に生きていく者になれ。こういうのが『大無量寿経』が私たちに教えてくださろうとしている仏道だろうと思います。



『今、いのちがあなたを生きている』

念仏の教えに出遇うとは、上記にあるように「我々の分別が何の根拠もないことがよく知らされる」ことです。よし悪しを超えた無量寿を生きるものになれと常に呼びかけられている、その自覚が大切です。（哲弘 拝）



この「徳用」は仏教を拠り所としている方々の言葉に直に触れ、この身で感じる事を願いとして毎月作成しています。多少難しい表現もあるかと思いますが、頭で分からなくても構わないので気にせず読んでみて下さい。